

インターバンクの声（2016年1月7日）

世界中、ほとんどの金融市場が4日に新年初日を迎え、何はともあれご祝儀的相場の展開を期待したが、現実はそう甘くなかった。前日にサウジアラビアがイランとの国交断絶を発表し、中東各地の紛争や対立が激化しそうだとの懸念が拡大、4日に始まった中国上海株式市場も指標悪化に反応して大幅に下落するなど、取引初日から投資家の意欲が萎えてしまった。相場がやや落ち着き始めたと思っていたら、今度は北朝鮮による水爆実験のニュースが飛び込んで来た。仮に水爆の実用化が可能になったとしても、北朝鮮が無謀な行動に打って出ることは考え難いが、市場に不安要素が加わったことに違いはない。頼みの米国も年末年始に発表された経済指標結果に先行き不安を感じていたところへ、昨日の世界銀行の世界成長見通し報告書で今年の世界成長率が昨年6月時点の予想から大きく引き下げられたことが加わり、経済成長への不安が広がっている。ADPの全米雇用報告が市場予想を上回ったことから、金曜日の米雇用統計が想定外の結果になる可能性は少なそうだが、万が一のことにでもなれば株価やドル円の下げがきつくなりそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。